

【みろく大神】

火水土 三位一體の御力を
具へて出でます五六七大大神

【明主様】

人々よ 無限の幸を豊に恵まむ
吾を信ぜよ信ずれば

御光筆『神世紀』

引首印 光明
落款 自觀書

落款印 岡懋之印
萬象臺主 昭和十七年 一月

神
成

自觀書



発行: 救いの光教団
編集: 神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎ 155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
<http://sukui.jp>
毎月1回1日発行
購読料 1部 80円
(会員の購読料は会費に含む)

2026
No.641
新年号



謹賀新年

令和八年・二〇二六年 丙午

『方針のみちしるべ』

- (一) みづめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

『教団方針』

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

『救いの光教団 綱領』

一、正神を敬い 祖先を尊び 恵みの光に浴して
感謝報恩の生活を送ります

一、明主様の教えを心に誓い 光をまくばり
救いの業を普く世にひろめます

一、誠と愛の人となり 利他の心を救いとして
世の光となるよう努力します



さて、令和八年は十干十二支では
丙午ひのえうまにあたり、午年は明主様の干支
でもあります。今年は六十年に一度
といわれる丙午であり、火の性質を
もち、エネルギーに満ちた年といわ
れ、新しい挑戦や努力が実を結ぶ、
明るく活気のある一年になるとと言わ
れております。それに加えて令和八

明けましておめでとうございます。
令和八年の新しき年を大光明・明
主様の御守護のもと、お迎えするこ
とが出来ました事、感謝申し上げま
す。

新玉の年を迎へ、皆様が明主様に
帰一し、世界の平和とともに願い、
大光明世界（地上天国）建設にお使
いいただける清らかな心と身体を保
つことができますよう、また正しき
想念と行いのもとに過ごさせていた
だけますよう願つております。

A portrait photograph of a middle-aged man with short, light-colored hair. He is wearing a blue plaid suit jacket over a white collared shirt and a gold-colored tie. A small gold pin or emblem is visible on his left lapel. The background is a plain, light-colored wall.

本紙一面に『
した。この御書
た昭和十七年一
月に御揮毫され
たものです。昼
の時代は神の世
界、まさしく“神
の世紀”ともい
えるのではない
でしょうか。ま

を救う御用ができるようにお願いさせて頂くことだと思います。加えて申し上げれば明主様の御心を誠をもつて見つめなおしその反省の下に素直にならせていただく事で御守護の道を歩むことができると信じております。

使徒である私たちには、魂をとりまく心と身体を清らかに保つことで、迷うことなく明主様にピントを合わせ、純粹に御用をさせて頂く気持ち、明主様に助けて頂き、

年の八という数字は「開く」という意味があり、発展を意味します。従いまして、世の中が丙午のもつ性質とあいまって力強く發展していくという事になるのではないで
しょうか。また、エネルギーの根源は火素太陽であり、大光明・明主様の御光とも考
えられます。この御光は一人一人の魂とし
つかりと結びついております。明主様の

た、「みろく大神」「明主様」の二首の神歌は昨年十月の全国信徒代表会の折、光守様の「おことば」よりこの神歌につきまして御教示を賜りました。このことにつきましては改めてお伝えさせて頂きます。

「教団方針」、「方針のみちしるべ」につきましては、令和六年に光守様より御示し頂き、三年目を迎えます。この時の「おことば」

令和八年年頭挨拶

会長
山寄明憲



『紅梅青松（双福）』明主様筆
落款／自觀 落款印／万象 昭和十二年

新年のごあいさつ

祭主 戸塚 大介

シリーズ 火水土の恵み コーナー



成 神
光守様、教師及び専従者の皆様、そして信徒の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は様々な事が起り、皆様には多大なるご苦労をお掛けしてしまいましたが、同時に皆様の誠心により困難を乗り越える事が出来ました。心より感謝申し上げます。

さて、新たな年を迎えるも皆様と共に御神業に邁進し教団の更なる発展の為に尽くしてまいりたいと思いますが、今現在の教団はまだまだ厳しい状況が続いております。明主様の御教えでは実践をとても大切にされております。決意を抱くのであればそれを具体的に実行しなくてはなりません。果たして今までの自分は実践を行う事が出来ていたのか、また、心が内に向いてばかりで、教団方針にもあります「光をまくばる」



「天馬」 北村西望 作 (ブロンズ)



みろく大黒天神様の嘉例にらい金粒米が御下賜されました。



自然農法担当教師による活動報告が行われました。

事が実行できていたのか、とても疑問に思つてします。

ですが、この様な事では状況の改善は難しいでしようし、何よりも皆様に希望をもつて頂く事が出来ません。

今の教団にとって一番必要なのは未来への希望です。そのためには、守るべきことは守りつつも、今までとは違う新しい方法を積極的に取り入れ、更には内内だけに満足せず外部へ向けた具体的な行動をするべきであると思います。当たり前のように聞こえるかもしれませんが、とくに外部へ向けての活動については私も含めてどこか臆してしまってはならないでしょう。

令和七年十一月二十三日、「火水土の恵み感謝祭」の大御祭典にあわせて十一月感謝祭、子ども祭御祈願があわせて執り行われ、本部からのライブ配信にて各布教拠点、各々の場所での参拝が行われました。

御神前には教団伊那水田で収穫された御初穂をはじめ無施肥無農薬野菜と金粒米がお供えされました。

前日は、東京教会の健美会役員を中心とした信徒さんのご奉仕により準備が進められた農産物の写真がパネルにて紹介されました。農産物は野菜やイモ類、果物など様々で、今年の酷暑にも関わらずどれも立派な作物で神の恵みを

祭典終了後には伊那水田米の新米を用いたおむすび弁当と教団園場で収穫された長不ギを使つた味噌汁がセットで販売され、収穫して間もない無施肥無農薬米に加え、以前から好評を得ている長ネギの美味しさに用意したおむすびと味噌汁に参拝された方々には笑顔があふれていました。

火水土の恵み 感謝祭

ト
ピ
ツ
ク
入

直接感じられ、今年は「北沢農園」と称して、本部にてプランター栽培された野菜も初めて紹介されました。

また、明主様の提唱された自然農法に関する資料も展示され、貴重な御在世当時の御写真や冊子とともに教団で発行されている「自然農法の根本理念」の紹介もあわせて行われました。

祭典の中では自然農法担当の小林、戸塚両教師により教団伊那水田の活動報告が行われ、小

火水土の恵み感謝祭（続き）

トピック



各布教拠点より寄せられた野菜、果実など多くの農作物の展示が行われました。

明主様が提唱された自然農法に関する資料をはじめ御写真も展示させて頂きました。
緑の冊子は教団発行の『自然農法の根本理念』。

農作物の展示は写真による展示も行われました。



伊那農場で収穫された実際の稻穂。



各布教拠点より寄せられた野菜、果実など多くの農作物の展示が行われました。

特別大祈願のご案内

今年一年の願い事を特別大祈願書に書きしたため、
頂きます。

大光明・明主様に誓願させて頂きましょう。特別大祈願
は信徒のみならず、未信徒の方も対象となりますので、
神様の御光に包まれて一年を過ごすことが出来ますよう、
身近な方などにお声がけをされてみてはいかがでしょうか。

- * 祭典日 令和8年1月4日（水）十時
- * 参拝所 東京本部、各布教拠点（教会、光導所）
- * 当日は東京本部での祭典の様子をYouTubeにてラ
イブ配信いたします。

* 特別大祈願書は所属の布教拠点にてお受け取り下
さい。祈願書は信徒向け、未信徒向けとあります
のでお間違えの無いようにお願い致します。

* 特別大祈願書は祭典日前までに御玉串料を添えて
所属の布教拠点に奉納していただきますようお願
い致します。

* 祈願書をお捧げされた方には守護鈴『光鈴』が御下
賜されます

なお、御下賜につきましては左記の通りとなります。

◇ 信徒の方／御下賜を希望される方は祈願書裏表

紙に○印をご記入ください。

◇ 未信徒の方／御祈願されたすべての方に御下賜
されます。

*ご不明な点がございましたら所属の布教拠点までお問い合わせください。

暉月

『白梅』明主様筆
落款／暉月 落款印／万象 昭和初期